

生物科学学会連合 第15回定例会議 議事録

日時：2017年4月1日（土）14:00～16:00

場所：東京大学理学部2号館2階223号室（東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内）

出欠状況：

出席（加盟団体）： *印は兼任、あるいは重複出席者を示す。

運営委員

中野 明彦（生科連2017-2018代表）

入江 賢児（生科連副代表） 小林 武彦*（生科連副代表） 宮島 篤 石野 史敏

団体代表

宮下 直*（個体群生態学会）

東原 和成（日本味と匂学会）

菱田 卓（日本遺伝学会）

高橋 昭久（日本宇宙生物科学学会）

寺田 純雄（日本解剖学会）

大杉 美穂（日本細胞生物学会）

深田 吉孝*（日本時間生物学会）

浦野 徹（日本実験動物学会）

松永 幸大*（日本植物学会）

永田 典子（日本植物形態学会）

松永 幸大*（日本植物生理学会）

寺井 洋平（日本進化学会）

吉村由美子（日本神経科学学会）

深水 昭吉（日本生化学会）

宮下 直*（日本生態学会）

都築 功（日本生物教育学会）

渋谷まさと（日本生理学会）

後藤 祐児（日本蛋白質科学会）

吉田 学（日本動物学会）

野尻 秀昭（日本農芸化学会）

高橋 明義（日本比較内分泌学会）

上野 直人（日本発生生物学会）

尾崎まみこ（日本比較生理生化学会）

大久保範聡（日本比較内分泌学会）

天知 誠吾（日本微生物生態学会）

深川 竜郎（日本分子生物学会）

細矢 剛（日本分類学会連合）

（計26団体）

欠席（加盟団体）： 日本神経化学会、日本生物物理学会、日本免疫学会、日本薬理学会

（計4団体）

（加盟合計30団体）

出席：深田 吉孝*（会計監査委員）

渡邊雄一郎（会計監査委員）

小林 武彦*（ポストク問題検討委員長）

出席（オブザーバー）：

北里 洋（自然史学会連合）

佐藤 均（染色体学会）

（計2団体）

（敬称略、団体名50音順）

事務局 中西 秀彦 村田 英樹

議題・報告：

1.代表挨拶

中野代表より、定例会議の開会に当たっての挨拶がなされた。

2.前回議事録の承認

第14回定例会議の議事録案が確認され、原案通り承認された。

3.染色体学会の入会について

中野代表より、染色体学会から入会希望がある旨説明がなされ、資料に基づき入会申

込書の内容を確認した後、染色体学会の入会が全会一致で承認された。なお、入会は平成 29 年度からとなる旨、確認がなされた。

引き続き、オブザーバーとして出席している染色体学会の佐藤均氏より、入会に当たっての挨拶があり、染色体学会の活動の概要について説明がなされた。

4.副代表、運営委員の選任について

中野代表より、平成 29-30 年度副代表候補として、入江賢児氏ならびに小林武彦氏が、また運営委員候補として、宮島篤氏ならびに石野史敏氏がそれぞれ推薦され、審議の結果、原案通り承認された。

5.会計監査委員について

中野代表より、平成 29-30 年度会計監査委員候補として、平成 27-28 年度に引き続き深田吉孝氏ならびに渡邊雄一郎氏が推薦され、審議の結果、原案通り承認された。

6.平成 28 年度事業報告について

中野代表より、平成 28 年度事業報告として、資料に基づき定例会議ならびに運営委員会の開催状況、生科連案内パンフレット 2016-2017 の作成状況、日本学術会議と共催した学術フォーラムの開催状況などについて報告がなされた。特に平成 28 年 4 月に発生した熊本地震に際して、各加盟団体から集約した支援策に関する情報を文部科学省に伝え、支援の参考にしてもらうなどの対応をした旨、また平成 28 年 9 月に日本学術会議との共催で学術フォーラム「若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える～卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性～」について、開催の概要について報告がなされ、引き続き小林副代表より、開催後の反響や卓越研究員制度の現状などについて補足説明がなされた。

7.平成 28 年度会計報告について

事務局より、平成 28 年度会計について報告がなされ、ほぼ予算額通りの決算状況となり、当期収支差額が約 38 万円の黒字決算であった旨の説明がなされた。

また、会計監査は 6 月～7 月頃に受ける予定である旨報告がなされた。

協議の結果、平成 28 年度会計報告は会計監査委員の監査報告に基づき、次回の定例会議で承認することが確認された。

8.平成 29 年度事業計画について

中野代表より、平成 29 年度事業計画として、資料に基づき定例会議、運営委員会の開催、生科連案内パンフレット 2017-2018 の作成、ジェンダーサミット 10 への協賛、若手キャリア問題についての調査・検討、生命科学系学会合同大会開催についての検討、日本学術会議との連携・協力などについて説明がなされた。

この中で若手キャリア問題について、生科連として学協会の意見を集約し発信していく仕組みの必要性が議論された。

次に生命科学系学会合同大会開催の検討について、平成 29 年 12 月に日本生化学会ならびに日本分子生物学会が中心となって「2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)」が開催されることをふまえ、中野代表より生科連としてこれを継続、発展させていくための方策を検討したい旨説明がなされた。具体的には資料に基づき、日本地球惑星科学連合と FASEB (Federation of American Societies for Experimental Biology) の活動の例が紹介され、日本における今後の生命科学系の学会として、まずは合同大会開催の可能性について、各学会に持ち帰って検討して欲しいとの依頼がなされた。

引き続き意見交換がなされ、運営委員会として原案を提案し、各学会に意見を求めることとなった。

また、中野代表より、日本学術会議との連携に関連して、現在、高等学校の生物の教科書において重要語の数が多く、また教科書によって使用されている用語が統一されておらず、教育現場での混乱が見られることから、生物系の教育用語の整理を行うため、日本学術会議で基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会生物分野教育用語検討小委員会を設置し、本年4月より6ヶ月の間に集中的に検討を進め、答申する予定である旨報告がなされた。

中野代表から本件については、生科連においても平成25年に教科書問題検討委員会を設置し検討を進めていたが、多様な意見をまとめることが困難となったため、作業が中断している状況であるとの説明がなされた。引き続き日本生物教育学会の都築功氏より、日本生物教育学会が幹事学会として活動した教科書問題検討委員会の活動状況について、特に医学系と生命科学系において用語の違いが大きく、意見の集約ができない状況だったとの補足説明がなされた。

引き続き意見交換がなされ、各学会から発行されている用語集を参考にして欲しい、医学系の用語に関しては法律で定められたものもあり変えにくい、教科に関しても「生物」と「保健」とで用語の違いが発生している、生科連の教科書問題検討委員会での審議、検討の過程が知りたい、などの意見が出された。

これを受けて中野代表より、日本学術会議の小委員会では現在1500語程度ある必須用語をなるべく減らすよう検討していくこと、用語の変更は最小限にしたいこと、複数の用語がある場合には併記することなど、今後の進め方について意見が述べられた。併せて教科書問題検討委員会での検討状況については加盟団体にフィードバックする旨の提案があり了承された。

9.平成29年度予算案について

事務局より、資料に基づき平成29年度予算案について説明がなされた。平成29年度予算案はすでに第14回定例会議で承認されているが、その後の平成28年度会計報告に伴う繰越金の確定や新たな加盟団体の入会に伴う収入額の変更など、若干の修正箇所が生じる旨の説明がなされた。

協議の結果、平成29年度予算案は原案通り承認された。

10.関連国際会議について

中野代表から国際生化学・分子生物学連合(IUBMB)の国際会議が、次回は2018年に韓国で開催される旨報告があった。

11.IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

都築功国際生物学オリンピック日本委員会委員(日本生物教育学会副会長)より、日本生物学オリンピック2017は本選が広島で開催されるが、4月から参加者の募集が開始される旨報告がなされた。

また、2020年には長崎で国際生物学オリンピックが開催される予定であり、加盟団体に対し財政的支援ならびに問題作成や運営スタッフといった人的支援の要望がなされた。

12.若手キャリア問題検討委員会(ポスドク問題検討委員会)について

中野代表より、昨今の若手研究者を取り巻く問題はポスドク問題以外にも存在することから、委員会の名称を「若手キャリア問題検討委員会」に改称したいとの提案があり承認された。委員長は引き続き小林副代表が務めることが確認された。

引き続き中野代表より、現在の喫緊の課題としては卓越研究員制度の問題があるので、

加盟団体より意見があれば寄せて欲しいとの要望がなされた。

13.日本学術会議関連報告

中野代表より、議題 8 の「日本学術会議との連携」の部分で報告した通りだが、生物分野教育用語検討小委員会で検討した内容は、生科連にフィードバックしたいとの説明がなされた。

14.その他

- 1) 日本生物教育学会の都築功氏より、「理数系学会教育問題連絡会」に由来から生科連が加盟していたが、現在は生科連からの窓口担当者が不明となっている旨の報告がなされた。
引き続き中野代表より、加盟に際しては拠出金の発生もないため、このまま引き続き加盟することとし、都築氏が生科連の窓口担当者となる旨提案がなされ、審議の結果承認された。
- 2) 日本生物教育学会の都築功氏より、第 22 回教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウムの開催案内について報告がなされた。

中野代表より、次回（第 16 回）定例会議について、日時は 2017 年 10 月 7 日（土）14 時から 16 時、場所は東京大学理学部 2 号館 2 階 223 号室にて開催したいとの提案があり、了承された。

以上